



日本医療機能評価機構認定病院

公立山城病院新聞

YAMASHIRO PUBLIC HOSPITAL

発行元 公立山城病院
発行元責任者 中埜 幸治

第9回 生活習慣病フォーラム

開催のお知らせ



テーマ 『健康生活を維持するために
動脈硬化予防と健康ライフ』

生活習慣病フォーラムは、今回で9回目を迎えます。当初「地域糖尿病会」として発足し糖尿病についての情報交換、交流の場として行っていました。2006年から食習慣、運動習慣、休養、喫煙、飲酒などの生活習慣が成人病発症進行に関与すると定義された事により、生活習慣病フォーラムと名称をかえ地域の皆様の健康増進・健康管理の意識づけを目的とし毎年10月に開催しています。

今回のテーマは「健康生活を維持するために動脈硬化予防と健康ライフ」です。

動脈硬化は心筋梗塞などの心疾患、脳血管疾患などの生活習慣病と呼ばれる疾病を引き起こす危険性があります。そのため、生活習慣病にならないためには動脈硬化を予防する必要があります。

疾病や障害のない状態で自立して生活できる「健康ライフ」を少しでも長く送るために、フォーラムに参加して一度ゆっくりと自分の生活を見直してみたいかでしょうか。今回のフォーラムでは中埜院長による講演をはじめ、運動・栄養・薬剤に対する個別相談や、身体計測なども実施する予定です。動脈硬化に対する正しい知識を持って、生活習慣病を防ぐ方法を一緒に学びませんか？

たくさんの方々のご来場をお待ちしております。



昨年の生活習慣病フォーラム



ご案内



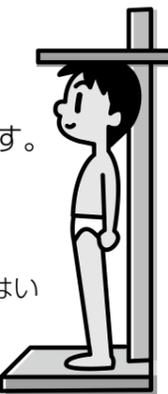
日時：10月23日(土) 午前10時～12時頃 *受付は9時30分から開始
場所：公立山城病院 9階 会議室



内容：中埜院長の講演

- 相談コーナー 医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士が各相談コーナーを設置しています。
- 測定コーナー 身長、体重、血圧、内臓脂肪、体脂肪、頸動脈エコー

参加することで、自己の生活習慣を見直す機会にしてみたいかがでしょうか？
参加者の方には、記念品もありますのでぜひお越し下さい。
※来院時は公共交通機関をご利用ください



昨年の生活習慣病フォーラム

回	年月	テーマ
第3回	平成22年10月	関節リウマチのリハビリテーションについて (リハビリ科 担当者)
第4回	11月	関節リウマチに関連する検査について (検査の見方) (検査科 担当者)
第5回	12月	日常生活の過ごし方 (基礎療法・感染予防など) (看護部 担当者)
第6回	平成23年1月	食事療法・健康食品について (栄養管理室 担当者)
第7回	2月	関節リウマチの手術療法について (整形外科医)
第8回	3月	関節リウマチのくすりについて (薬剤部 担当者)
第9回	4月	関節リウマチに関連した装具・自助具、住宅改修 (リハビリ科 担当者)
第10回	5月	社会保障制度について (地域医療連携室・医事課担当者)
第11回	6月	関節リウマチ最新の話 (リウマチ科 和田)
第12回	7月	特別講演 (未定)

リウマチ教室が始まりました!

山城病院では平成22年8月より毎月1回(第4金曜日15時～16時)リウマチ教室を開催しております。

この会の目的はリウマチ患者さん、またその御家族に対して関節リウマチに関連した正しい情報を提供することです。そのことにより病気に対する理解を深め、毎回の通院時に受ける検査の内容、服用中の薬、日常生活の過ごし方や運動方法、利用できる社会保障制度について知っていただき、患者さん日々の生活に役立てていただきたいと思います。

対象は、当院に通院しておられる、おられないに関わらず、関節リウマチ患者さんとその御家族や、コメディカルの方の参加も歓迎しております。

現在まで2回終了し、延べ約130人の方々に来ていただいております。

今後の日程は左記のようになっております。



職員紹介



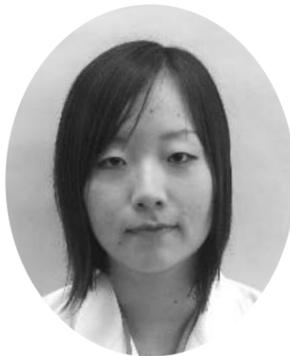
はじめまして。臨床心理士の林良子と申します。

この度、7月22日付けで緩和ケアチームの一員として毎週木曜日勤務させていただくことになりました。現在私は山城病院以外に精神科クリニックや発達障害児の療育訓練施設相談センターなどを兼務しております。

このたび2010年8月より当院循環器科に勤務させていただくことになりました堤丈士です。今までに奈良医大付属病院、国立循環器病センターで勤務し、循環器を中心に腎臓代謝内科を専攻しておりました。とりわけ循環器では、虚血性心疾患に対するインターベンションの他に、集中治療管理、心不全や不整脈等幅広く見識を広めており、当院でも微力ながら貢献させていただいたと思います。また、最近では心腎連関という概念があり、その架け橋的な役割を果たせばよいかと思っております。

また将来的には、胸痛患者や不整脈の患者の外来を行い、地域医療に貢献できればよいかと思っております。まだまだ未熟な面も非常に多くご迷惑をかけることもしばしばあると思われませんが、どうか暖かい、ご支援、ご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

内科医員 堤 丈士
資格：日本内科学会認定医



臨床心理士 林 良子

心理士として携わるにあたり、ここで少し心理士の職務についてご紹介させていただきます。心理士の職務は幅広く療法も様々ですが、人が心に思うことを言葉にできない時、その人自身の言葉で表現できるように専門分野から介入し、その人らしく生活できるようサポートすることを主体としています。これから緩和ケアチームの一員として日々学びながら頑張りますので、よろしくお願ひいたします。

眼科紹介

午前外来は

月曜日は非常勤医師1名、火曜から木曜は常勤医師2名、金曜は常勤医師1名の体制でおこなっています。初診のかたは病状の確認がまず必要ですので、予約なしで一度受診していただくことが必要です。再診のかたは予約センターを通じて予約していただくことが可能になります。

午後外来は

小児の検査、視野検査、蛍光眼底造影検査、網膜光凝固術などの、時間のかかる処置や検査をおこなう時間になりますので、それぞれ予約をとってきていただいています。



白内障とは

眼科の病気でよく耳にされるものには、まず白内障があります。白内障は加齢により、目の中のレンズにあたる水晶体が若いときは透明だったのが、濁ってくることです。年をとると誰にでもおこってくるものですが、進行はひとそれぞれです。曇りガラスを通してみているのと同じことになり、自分でかすむのがわかります。見にくくなってきたなと思ったら、一度検査をうけてください。白内障は現在のところ薬では治りませんので、見にくくて不自由になれば手術をすることが必要になります。当院では日帰り手術、入院手術ともに対応しています。手術後数日は毎日診察が必要ですので、患者さんに合わせて対応していきます。

緑内障とは

他には緑内障という病気があります。白内障とよく混同されていますが、全く違う病気です。これは目から頭に見えたものを信号として伝える、視神経がいたんで、見える範囲が狭くなる病気です。40歳以上の5%、70歳以上では7〜8人に1人がかかっているといわれています。この状態について調べるためには見える範囲がどのぐらい大丈夫かを調べる視野検査を行います。

糖尿病網膜症とは

また、糖尿病にかかっている患者さんも多いと思いますが、この病気は合併症として糖尿病網膜症をおこすことがあります。これは網膜という目の奥の、カメラでいうとフィルムにあたるところを障害していきます。病気になってから時間がたっていたり、血糖のコントロールが悪いとおこる可能性が高くなります。自分ではかなり重症になるまで気づかないことが多いので、糖尿病にかかっている方は必ず検診が必要です。この病気の検査では瞳を開いて、眼底検査が必要で（見にくくなるため、検査をした日は車の運転はできません）ある程度以上進行していると、蛍光眼底造影や網膜光凝固術といった検査や処置が必要になります。悪化しても元に戻す手段はなく、どのようにして食い止めるかということになりますので、内科の治療をきっちりとして、定期的に眼科で検査を受け、早く発見することが大切です。

小児の検査について

小児の検査は主には3歳児検診などで再検査が必要になり、視力が発達していない弱視や斜視が明らかになった場合の経過観察の時間となります。初診ではまず予約なしで午前中に受診していただくこととなりますが、その後の検査は時間がかかりますので、午後から予約をとっていただき、視力検査などおこなっていきます。気になることがある方は一度受診をしてください。

眼科医長 菫村 有紀子



緩和ケアチーム 活動開始



かねてからの念願でありました緩和ケアチームが結成されました。チームメンバーは、入院中の患者様で緩和ケアを必要とされている方へチームで緩和ケアを行っています。つらくならいように癌と付き合っていく為に、医師・薬剤師・看護師・臨床心理士・言語聴覚士が、身体の不調・心の問題などを抱える患者様及びその御家族に対してケアを行っていきます。現在は活動を開始したばかりですので週1回入院中の患者様に限定しております。今後少しずつ活動を拡大していけるよう努力をしていますのでよろしくお願いたします。



緩和ケア認定看護師

当院に緩和ケア認定看護師が誕生しました



松本典子さん

私は、約9年間内科病棟に勤務し、がんと共に生きる患者さんや、そのご家族の看護をさせていきました。そこで、がんを患っても、最期の瞬間までその人らしい生き方ができるケアを実践するためには、緩和ケアを学びたいと思うようになりました。

昨年、緩和ケア認定看護師教育を9か月間受講後、認定試験に合格し、緩和ケア認定看護師として、業務にあたることになりました。

緩和ケアとは、終末期という特定の時期だけに適用されるものではなく、がんと診断された早期から、治療と並行して実践されなければならぬケアであると考えられています。

そして、がんという疾患は、患者さんだけではなく、そのご家族にも、日々の生活に影響を及ぼすほどの大きな苦しみや悲しみを背負わせることとなります。私は、緩和ケアは患者さんだけではなく、ご家族もケアを受ける対象であると考えています。

そして、入院中の患者さんのみならず、地域の中でがんを患いながら生活されている患者さん、そのご家族に対しても、日々穏やかにその人らしく生きていくことが出来るために、微力ではありますが、緩和ケア認定看護師として関わることができるようになりたいと思っています。今後ともどうぞ宜しくお願いします。

6階病棟看護師 松本 典子

平成23年度看護師採用に向けて

今年も就職を希望する看護学生を対象に、7月25日、8月20日の2回病院見学会を開催しました。

まず、病院長より将来の病院像を交えた挨拶をして頂いた後、看護部長から病院の概要や地域に根差した病院としての役割、看護教育制度等について説明がありました。又、教育委員の副部長より平成22年から導入した新人看護研修を中心とした院内教育システムについての説明が行なわれました。そして、今年度入職した新人看護職員の案内で、院内を見学して頂いた後、交



流会を行いました。参加者は、新人看護職員から現場での体験談や、入職してからの働きぶりを耳にしているうち、緊張もほぐれ、打ち解けた様子が見られました。実際に病院を見学し、体感する事でパンフレットやホームページでは解らない様々な面が見え、就職に対する不安や悩みの軽減につながったのではないのでしょうか。山城病院に就職希望の看護学生の方は、是非一度、病院を見学にお越し下さい。詳しくは、ホームページをご覧ください。職員一同、心よりお待ちしております。

副部長会一同

京都府総合防災訓練に参加しました！

9月4日、山城総合運動公園において京都府総合防災訓練が行われました。当院DMAT(災害医療支援チーム)は府下の災害拠点病院をはじめとする医療機関、医師会、自衛隊、消防などの諸機関とともに訓練に参加しました。今回、我々は救護所における統括を担当しました。

想定では倒壊ビル・土砂災害現場から救助された60名以上の傷病者が現場に存在しました。傷病者は重症度に応じて赤・黄・緑のエリアに誘導され(トリアージされ)、各エリア内の傷病者の情報収集、診療には医療チームが従事しました。とりわけ緊急度の高い重症者については優先的に搬送する体制を構築し、救護所という大きなチームの運営を通し医療需要に応えました。しかし時には傷病者が急変したり、欲しい情報が届かなかつたりと、訓練とはいえ混乱する現場の中で活動する難しさに直面しました。

今後50年以内に80%の確率で発生が予測される東南海・南海地震において、京都府南部を中心に震度6弱で死者130人、負傷者6000人、被害家屋は6万2300棟という予測が既に公表されています。生きている間に未曾有の大災害を経験する可能性は十分にあります。災害は人を選ばず、誰にとっても守りたい人、財産、生活がある限り、誰もが災害への備えを求められる事と思います。訓練や備蓄、啓発活動などはもちろん、ひとりひとりが日々の生活や仕事の中で「何が出来るか」「何を生かせるか」「何を变えていくか」について問い続けていくことが大切なのではないかと考えます。

高山 良光

公立山城病院 DMAT



救護所に向かうヘリコプターに乗り込む山城病院DMAT

第 50 回 全国国保地域医療学会 に参加しました!!

当院は、平成 22 年 10 月 8 日・9 日に国立京都国際会館にて開催されました「第 50 回国保地域医療学会」に参加しました。

地域医療学会の主な目的は、国民健康保険制度並びに社団法人全国国民健康保険診療施設協議会の理念に則り、国民健康保険診療施設関係者等が参集し、地域医療及び地域包括ケアの実践の方途を探索するとともに、関係者の相互理解と研鑽を図ることを目的としています。

学会の内容は、研究発表（口演、示説討論、ワークショップ）、宿題報告、特別講演Ⅰ、Ⅱ、シンポジウム、国保直診開設者サミット、市民公開講座、展示会などです。

市民公開講座第 2 部では、副学会長である当院の中埜院長が、野村克也氏（東北楽天ゴールデンイーグルス名誉監督）による講演の司会者を務めました。また、シンポジウムでは、「地域連携体制の構築」をテーマに中井副院長が発言者として参加しました。他にも、大勢、当院スタッフが口演発表者 3 名、示説発表者 11 名、参加型ワークショップ 2 名、応援、準備等、総勢約 60 名が参加しました。

今後も、地域住民の方が安心して、良質な医療を受けられるよう、職員一丸となり、一層の努力を続けてまいります。

事務局次長兼事務部副部長 谷本 茂樹



中井副院長



示説発表者



示説発表者

第 7 回

住民フォーラムのお知らせ

日時：平成 22 年 12 月 9 日 (木) 午後 3 時～午後 5 時 場所：公立山城病院 9 階会議室

メインテーマ：「地域で考える病気の予防」

■基調講演 — 糖尿病とがん — 中埜幸治院長

総合司会：内科系診療部長 新井 正弘



平成 22 年度 防災訓練 について

当院は地域災害医療センターに指定されています。地震などの災害時には、現有する資機材を最大限に利用し、地域医療に貢献致します。平時より、防災訓練などを行っておりますが、今年は下記の日程で予定しております。

日 時：平成 22 年 10 月 28 日 (木) 午後 3 時～午後 4 時 30 分

場 所：JR 木津駅前広場

協 力：・相楽医師会 ・京都府木津警察署 ・木津川市役所 ・相楽中部消防本部
・精華町消防本部 (順不同)

